

圣母マリア



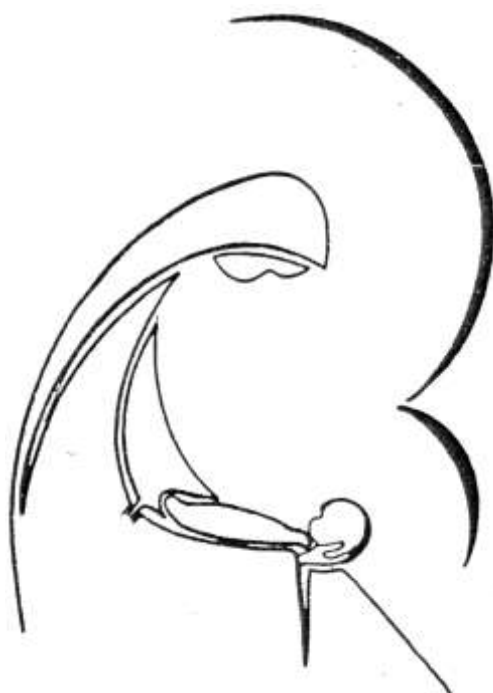
Ave Maria, gratia plena, Dominus tecum,
benedicta tu in mulieribus
et bene dictus fructus ventris tui Jesus!
Sancta Maria, sancta Maria, Maria,
ora pro nobis, nobis peccatoribus
nunc et in hora, in hora mortis nostrae. Amen.

聖句

愛は

決して滅びない

コリントI 13・8



[目次](#)

《 アンジェラスの鐘 》

赤波江 豊神父

教会では、よく正午や定時刻に鐘を鳴らします。これをアンジェラスの鐘と言います。これは、聖書にあるように、大天使ガブリエルが聖母マリアに、救い主を胎(やど)したことを告げ知らせたことを思い起こし、私たちも人となられた神のいのちにあずかることを祈るものです。



以前箕面教会にいたとき、ある信者さんから電話がありました。教会の近くに住んでいる知り合いの未信者に4才の子どもがいるが、重い病気なので、教会の神父に祈ってほしいということでした。

早速、翌日訪問しましたが、その子は小児ガンで全身が侵されて目も見えなくなっており、私の目にもあまり長くはないように思えました。その子の名前は圭司(よしつぐ)と言いました。1年前にガンが発覚して以来、母親は病室から片時も離れることなく、つきっきりで看病していたのでした。その母親は信者ではありませんが、マリア様が好きらしいということで、そこで聖母マリアの取り次ぎを求めて祈り、持参したルルドの水を注いだりしました。

最後に訪問した日、その日は金曜日でしたが、あいかわらずベッドの上に身を横たえているこの幼い子の手を取って、私はマリア様に、こう声に出して言いました。「マリア様、あなたも昔、こんな幼い子どもをかかえて苦労した日があったでしょう。だから、あなたはこの母親の気持ちか誰よりもわかるでしょう。だからお願いします。なんとかこの子を救ってあげて下さいよ」そう言って、ルルドの水を注ぎました。

その時、ふと教会の鐘の話になりました。母親は、時々看護師さんと、いい鐘の音が聞こえてくるね、などと話していたらしいですが、これが箕面教会の鐘の音とは知らなかったようでした。私は、病室の窓から小さく見える教会の塔を指しながら、あそこから聞こえてくるのですよと教え、鐘が鳴る時には圭司ちゃんのためにお祈りしますと約束して帰りました。

翌日の土曜日の夕方6時、その時私は自分の部屋にいましたが、アンジェラスの鐘が鳴ったので、約束どおり子どものために、マリア様にささやかな祈りをささげました。その2時間後電話があつて、ちょうど6時に、子どもは眠るように息を引き取っ

たとの知らせを受けました。6時といえば、アンジェラスの鐘と共に、私が子どものために聖母マリアに祈っていた時でした。圭司ちゃんはアンジェラスの鐘と共に、天に昇って行った！！

その時私は、前日の金曜日の夕方、この子の手を取ってマリア様に言ったことばを思い出しました。あのことばを、マリア様はどのように受け止めてくれたのでしょうか。おそらくマリア様は、自らも幼い子どもをかかえたことのある母親として、この子にこの世でこれ以上苦しんでほしくない。この子のこの世での使命は終わった。この子が天に昇ったあと、再びこの世に、この子の花を咲かせてあげることを約束して、この子を天国につれて行ったのです。

私は、この子がアンジェラスの鐘と共に天に昇ったことを、決して偶然とは思いません。むしろ、聖母マリアがこの子に目をとめて下さったしるしと、今でも堅く信じています。そのご一家は翌年の復活祭に家族全員で洗礼を受けられました。

神の御母聖マリアよ幼子の心を保たせて下さい

泉のように清く澄みとおった心

寂しさにもくじけぬ心

惜しげもなく

自分を与えて微笑む心

同情に満ちたやさしい心

憎むことなく思いやりのある心

誠実で寛やかな心

愛を惜しまず同情を求めない心

柔和にして謙遜な心を

御子イエスの光栄のため

全てを快くゆずる心

忘恩冷淡にも気落ちせず

おおらかで強い心

イエスの愛に燃えその愛に渴く心

永遠の天国を仰ぎ慕う心を

御母よ、わたしに与えてください



(圭詞ちゃんが天に昇った時、ささげた祈り・・・グランメゾン師 作)

《 目 次 》

☆ <u>聖句</u>	2
☆ <u>アンジェラスの鐘</u> 赤波江 豊神父	3
☆ 目次	5
☆ <u>洗礼者聖ヨハネの誕生</u> フェリクス神父	6
☆ 信徒総会議事録	(6~11)
☆ 新リーダー紹介	(12~14)
☆ 病気になったら 晴佐久昌英神父「恵みの時」から	(15)
☆ 洗礼おめでとうございます	(16)
☆ 初聖体おめでとうございます	(17)
☆ 障害について	(18~19)
☆ <u>東ブロック合同堅信式</u>	7
☆ <u>神戸地区大会</u>	8
☆ <u>第5回生涯養成テーマ「生と死」</u>	10
☆ <u>図書コーナーから</u>	13
☆ はじめての車椅子と松葉杖	(28~29)
☆ 教会学校サムエルナイト・夏のキャンプから	(30~31)
☆ バーベキュー大会	(32)
☆ 青年学生チーム・夏のキャンプから	(33)
☆ 信徒動静	(34)
☆ 教会日誌	(35)
☆ <u>後記</u>	14

題字： 千葉 健吉
表紙画：南浮由美子

太字はこのホームページ掲載 PDF ファイルのページ、カッコつきは原本のページです。

《 洗礼者聖ヨハネの誕生 》

フェリクス神父様(07・6・24)ミサのお説教から

エリザベトが洗礼者聖ヨハネを身ごもったと天使から告げられた時の夫ザカリアの答えと、マリアがイエスを身ごもったと天使から告げられた時のマリアの答えを比較してみると、エリザベトの夫ザカリアは

「高齢の自分達に子が授かるはずがない」と否定し、マリアは有るはずのない事と思っても、「神ご自身のご計画なら御旨のままに・・・どうぞ私をお使い下さい。」と答えられたとあります。

天使から「信じなくても神のご計画はそのまま進む。

その間あなたは言葉を失う」と告げられたザカリアは

言葉を失って過ごした沈黙の後、神を受け入れ、言葉を取り戻し、心から神を賛美します。又、洗礼者としての活動を始めるまでのヨハネは、荒野に住み、そこで長い沈黙の時(祈りの時)を過ごし、その後の宣教活動は自信にあふれたものとなりました。



私は最近、無意味な言葉の多さや周りの生活雑音の多さが気にかかるようになってきました。祈りに通じる、意味のある沈黙の時間をもっと持ちたいと願うようになってきました。深い静かな沈黙後の言葉は、より意味のある事を伝えられるようになるのではないかと思うからです。

ヨハネは常に神からの言葉だけを伝えようとしていました。私たちも預言者として神からの言葉を伝えるために、静かな沈黙の時を持ちたいと思います。

イザヤの預言 49-4(第1朗読から)

『わたしは思った。わたしはいたずらに骨折りうつろに、空しく、力を使い果たした、と。しかし、わたしを裁いてくださるのは主であり、働きに報いてくださるのもわたしの神である。』

・・・神は、はたして何に報いてくださるのか・・・

私達も神の言葉を伝える預言者であるならば、毎日繰り返される生活の中でも、神の証しの言葉を伝える者として生きれば、一見、何程の事のない毎日であるように思ってもそれは意味のある生き方になると思います。それを目指して毎日を送れたらと思います。

☆司祭不在のこの3ヶ月間、大阪、今市教会から通って下さって有難うございました。

神父様は、「御旨であれば、私はいつでもまいります」と言葉を残されました。

《 神戸地区東ブロック合同堅信式 》

6月3日(日) 於カトリック六甲教会

松浦悟郎司教様の司式で、神戸中央教会・六甲教会・三田教会・住吉教会の合同堅信式が執り行われました。

住吉からは14名、4教会で64名の方が受堅されました。ミサ中の堅信式で、各小教区の受堅者が紹介され、受堅者全員、祈りの中で洗礼の約束を更新。後、一人一人司教様より「鞍手と塗油」の秘跡が授けられました。ミサ後、外庭に用意されたパーティー会場で、堅信証明書と記念品が渡され、イベントと婦人会お心づくしのご馳走で、同じ食卓を囲み喜びを分かち合いました。

『 松浦司教様のお説教から 』

聖霊は・・・神の息＝風・・・「風」は吹くとそこに新しい命を運びます。

聖霊が訪れると・・・私たちの中に何かが起こっています。閉じた心は開かれ、温かさに満たされる。新しい事に会おう勇氣、神と共にいて何かをしたいという心、そしてその一歩が踏み出せる力がみなぎります。

聖霊の働きはどこに向かって吹くのか・・・目的はただ一つの処に向かっています。一つの目的とは ⇒ 三位一体の神と私達が一つになる事です。「父・子・聖霊」は異なりますが、「愛すること」によって完全に一つになります。

私たちは皆異なります。国々も各々異なりますが、たとえ宗教、民族の対立があっても、「争いの在る所に和解を・憎しみの在る所に許しを」との思いを持ち続け、神によっていつか一つになるという希望を失ってはいけません。

愛について・・・人は一人で愛することはできません。閉じられた愛は本当の愛ではなく、人は自分以外の相手があって愛することを知るので。そして司教様のお父様が昔子供達に話された言葉を引用されました。・・・「お父さんとお母さんは愛し合っているがそれだけでは何か足りない。家族だけ、グループだけ、教会だけ、日本だけというのは狭い愛。自分達以外の人々、他の第3者を受け入れなければ、それは本当の愛といえない。」

「三位一体の神を信じると言う事は、心を開き全てを愛するという事。そしてそれを伝える為に、私達は神から派遣されているのです」といわれました。

編集部



[目次](#)



《 2007・カトリック神戸地区大会 》

6月10日(日) 於神戸海星女子学院(講堂)

神戸地区の4ブロック…東(住吉・六甲・神戸中央) 北(三田・篠山集会所) 中(鈴蘭台・たかとり・兵庫) 西(明石・北須磨・洲本・垂水)の11教会の信徒が『教会で会おう』の言葉の下に2年に一度同じ場所に集い、池長大司教様・地区の神父様方と同じ時を過ごす地区大会がありました。1部は楽しいイベント、2部は大司教司式のミサがおこなわれました。住吉教会からもたくさんのボランティア、参加者がありました。

澤木大会委員長(鈴蘭台)挨拶から

昨今、若い人・中・高生が教会やミサに姿を見せない人が多くなり、大変気になり寂しいかぎりです。今は諸事情で離れ離れになっているある家族が、日曜日には「教会で会おう」の約束で結ばれているという話を聞き心打たれました。家族の繋がり、絆、信仰のありかたを基にメンバーで議論を重ねました。「ミサで、家族が並んで祈っている姿こそ神が望んでおられるのではないか」との思いからこの言葉を大会のテーマに選びました。多くの若者が、教会にミサに祈りに向かわれることを切望します。

池長大司教ミサ説教から(神戸地区だより『つながり』6月号の中に全文掲載)

本日のテーマに従って・・・子供は神の国において、信仰者の世界において、教会において、一般社会においても全てにまさって大切にされなければならない。神の前において、もっとも大事なものだからです。でも実際には、子供はそうにされているだろうか？

☆日本の最近の虐待は、自分達にとって子供の存在が邪魔、やっかいだからという。財政事情等で少子化もやむをえない面もあるが、生活のステイタスを維持するための共働きの選択もあるのでは？仕事に追われる父親と子供の薄くなりがちな出会いへの努力はなされているか？世界の競争社会に勝つため、能力重視の教育をしているか。子供の存在の意味を大切に能力に応じた教育がなされているか。

☆カトリックの家庭において、主日のミサ、幼児洗礼、教会学校や家庭での祈りの生活への両親の考え方が変化してきた。神さまやイエスさまを大切に信仰に深く生きている姿が子供に伝わらないと子供の中に信仰は芽生えない。

☆ご聖体の祝日の今日、親と子が、「血と肉を分けた」その関係を生涯持ち続けるように、神と自分との「同じ命をわかちあっている」というつながりの実感はどこまでも深いものであり、ご聖体の秘跡の実感を持ち続けてこそ、存在の奥底からの信仰者といえるでしょう。

編集部



7人の子供たちの神父様への質問コーナーより

(かわいい質問とユーモア溢れる答えに爆笑の渦でした。)

Q・兵庫・Nさん…「好きな動物は？」

A・吉岡神父…「人間も含めて動くものは好き。教会には猫いてかわいい。」

Q・垂水・Sさん…「なぜ神父さんになろうと思ったのですか？」

A・グイノー神父…「両親はパン屋さん。私は永遠の命を作る天国のパン屋さんになろうと思った。」

Q・鈴蘭台・Tさん…「一番心に残る思い出は？」

A・池長大司教…「教皇大使に呼ばれて、教皇様から大阪教区の司教に任命するという手紙をもらった時。」

Q・中央・Iさん…神父さまになった時の気持ちは？」

A・シリロ神父…「とてもうれしかった。お兄さんは神学校で8年勉強したけれどやめた。私はやめずに今もず～と神父でとても嬉しいです。」

Q・三田・Iさん…「ミサの時に言う、レオイケナガジュンは何人？」

A・大司教…「私の顔見たら何人に見えますか？…実は日本人だけど、ほかにも国があって、神の国の人で地球人かな。」

Q・明石・Iさん…「神父様のお給料はどれくらい？」

A・神田神父…「昨日神父になった人も、もうすぐ天国に行く人も皆同じ。13万位。いろいろ引かれて、手取11万を切るなあ。」

Q・六甲・Tさん…「教会に来たことのない子に神様の事どう伝えればいいの？」

A・オマリー神父…「大事なものは心、君が、『教会はアーいいなあ』と思っていればその子も一緒に来ると思うよ。」



神戸地区大会

6月10日(日)

神戸海星女子学院

[目次](#)

《第五回生涯養成テーマ「生と死」》

パネリスト

7月8日 10:30～

酒井泰弘先生、谷本恒幸先生、谷尻仁先生



谷尻先生

今日のテーマは私達の内面的な問題

「生と死」について考えましょう。

神様から我々は命を平等に与えられ

ています。時計に例えると最長

120年時を刻むと言われていますが

いつ止まるか誰にもわからなくて、

確実にくるものが死。

上智大学のA・デーケン先生は死の準備教育を提唱されていて、死をしっかりと認識する事でいかに生きるかわかってくる。いつ死んでもいいように心の準備をする事によってあらゆるもの(人生、社会、家庭、教会 etc)の考え方、見方が変わってくると述べておられます。

酒井先生 (良く生きるためのユーモアの大切さとデーケン先生のお話の紹介)

ユーモアの語源はラテン語で人間の体液の事である。中世の医者には体液によって人間の気質が変わる、病気にも関係があると考えていたようです。

人と会話する事が大切で、その中でユーモアは相手に対する思いやり、相手を大切にしたい暖かい雰囲気を醸し出して心から心のコミュニケーションを伝えるもの。またユーモアは愛と思いやりの出発点でもある。カトリック信者は物事をかたく考えがちなので潤滑油としてのユーモアをもっと上手に使わないといけない。お互いに話し合う事で相手の立場もわかるし、こちらの考えている事も伝えやすいのではないかと述べておられます。

デーケン先生も言っておられるが我々は大切にしているが祈りの順序を間違えてはいけません。順序は ①感謝 ②神への賛美 ③願い。

複雑な現代社会にあつていろいろな問題があり、我々は問題化することによって解決しようとしているが、その中に神秘的な次元がある。フランスの有名な哲学者マルセルが「愛と出会い、生と死の問題、苦しみの意義、これらの事は宗教に関する神秘的な次元に属するもの」と強調して述べている。

又デーケン先生は「根底にあるものは愛の神であり、裁く神から赦す神、母なる神というイメージ」を強調されており、遠藤周作を取上げられて「この方の考え方は日本人がキリスト教を理解する為にこの点を重視してくれた功績は

大きい」と高く評価されている。またユーモアのないクリスチャンはキリスト教の本質に反しているのではないか。愛の宗教である以上、微笑み、笑い、思いやりにみちたユーモアを持って人に接する事の大切さを強調されている。

- * 谷尻先生から皆さんに告知を望むか否かの問いかけがあり望む方が圧倒的に多かった。又先生のご体験から臨終に立ち会うときの心構えとして家族皆で(若い人も子供も)一緒に正面から向き合うことが大切と話された。

死のイメージは?との質問に答えた方達のメッセージを紹介すると

- ①不安はあるし、そのときにどう対応するか自信はないが神からの愛を頂いてこの世で終らない新しい出発と考えたい。寝る前の感謝、委ねる心、死んでから後悔しない生活を心がけたい。
- ②毎日、毎晩感謝して暮らしているのでいつ死んでも悔いがない。
- ③悔いだらけで許して欲しい事ばかり。いつも死から離れる事は出来ない。
- ④部屋の整理をちゃんとしておかなければ!
- ⑤与えられた命、召される命、この命は終わりではない。この世は永遠の住居ではないと考えられるのはクリスチャンの大きな恵み、心の励みと思う。
- ⑥困難な現実の生活の中で不安があるが、信仰厚い親を見送った体験から死には備えられた時があると思うようになった。
- ⑦頭の中で思っている事と現実になったときに自分がどうするか自信はない。

谷尻先生が臨死体験をした方の話を聞かせてくださいました。

「別れは辛いけれど苦しい事はなく、そのまま死ねたほうが良かった」との事

- * 谷尻先生からの提案 (NHK の番組を参考になさった) 「もしあなたの命はあと〇年」と告げられたら、今のうちに何をしておこうと思われませんか。もしあと3年といわれたと仮定して、その時にしようと思うことを30書き出します、1年といわれた時には12に、6ヶ月の時には6、3ヶ月の時には3、1ヶ月の時に残った一つか二つが本当に大切な事でしょう。それは残される人への愛、思い、感謝になるのではないのでしょうか。

キュープラ・ロス (スイス生まれ、アメリカの精神科医) の死の受け止め方のプロセスとは、我々が死を宣告された時にたどるもので

- ①ショック ②否定 ③パニック ④怒り ⑤妬み ⑥罪の意識 ⑦幻想、孤独感 ⑧無関心 ⑨あきらめ ⑩受容 ⑪新しい希望 ⑫ユーモア ⑬立ち直る・・・とあります。

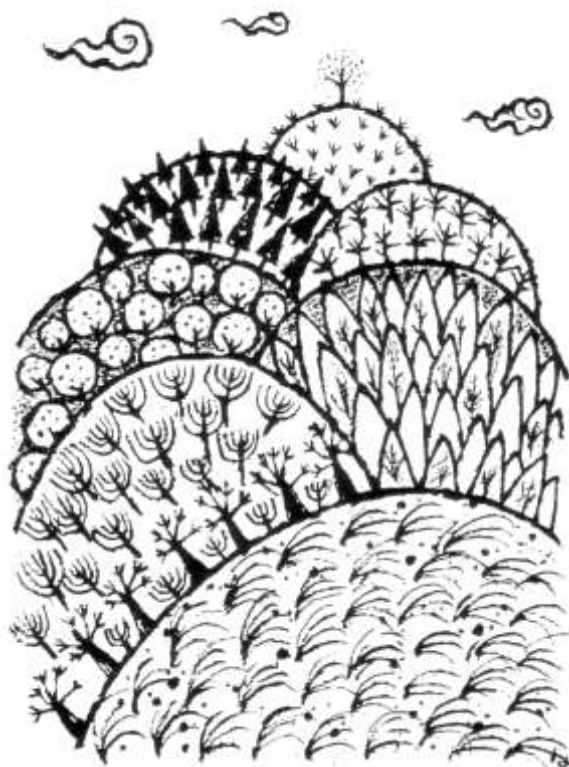
* 尊厳死について

人生の最後に尊厳ある死を迎えるために、松本信愛神父様監修の「終末期医療に関する要望書」は参考になるものです。詳しくお知りになりたい方は谷尻先生にお尋ねください。

また介護に関しては認知症の病人を手術する場合、家族の判断も重要だからドクターと家族の話し合い、相談はとても大切と先生方からのご意見でした。

一時間余、ホールに集まった一同は避けては通れない事のお話を熱心に伺いました。キリスト者にとって「死」は「終わり」ではなく天国への通過点にすぎないのだという事を心に留め、タブー視することなく永遠の命へ入る事が出来るように祈りたいものです。

編集部



目をあげて
わたしは山々を仰ぐ
わたしの助けは
どこから来るのか
助けは神のもとから
天地を造られた
神から来る

—— 詩篇
121



《 図書コーナーより 》

図書委員推薦の3冊です。2階図書コーナーにありますのでどうぞご利用ください。

◎ たった一度の人生だから

日野原 重明 星野 富弘

いのちのことば社フォレストブックス

聖路加国際病院名誉院長の日野原重明先生(95才)と、元体育教師にして詩画家である星野富弘さん(61歳)との人を愛し人生を愛して止まないお二人の対談形式の読みやすいこの一冊は、ほのぼのと人々の心を豊かにすることでしょう。

◎ 母の遺言

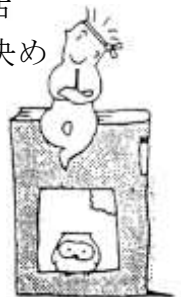
桜井 彦孝 (六甲教会主任司祭) 女子パウロ会

- ☆ 「山上の説教」の「心の貧しい人」とは、自分の弱さや貧しさを知る人、自分の無力さを知って神にひたすら頼る人。すなわち、人間をまことの幸せに導くのは己の力で獲得できる何ものかではなく、神との交わりをとおして与えられる恵みだけです。心の貧しい信仰者は神以外に依存すべきものをもたないので全てを神にゆだねるのです。(本文 P.123 より)
- ☆ 「本物になりなさい」という母の言葉を心に刻んで歩んだ司祭の道。日本人としての原風景の中で、信仰を考え、模索し、生きる。
(本書帯より)

◎ 子どもへのまなざし

佐々木正美 (児童精神科医) 福音館書店

- ☆ 佐々木先生のお話を聞く事ができれば、きっと子育ての不安や悩みは解消し、親も子も幸せになれるでしょう、
- ☆ 子どもは人とふれあいながら育つことが大事だとおっしゃる先生の講演を、ぜひ本にしていただきたいと願っていましたが、先生のお話が見事活字になりました。子どもに直接かかわり合う人はもちろん、関係ないと決めこんでいる人にも必読の書だと思います。
作家 中川 季枝子 (本書帯より)



[目次](#)

【 後 記 】

お聖堂が新しくなって早や一年が過ぎました。信徒の方々のお席もほぼ決まって来た感が致します。あの席にはあの方の後姿が、あの辺りにはあの方のいつもの笑顔が・・・この辺りにはきっとあの方がいらっしゃるはず・・・。それぞれの方が神様のみ言葉を聞くにふさわしいお気に入りの場所を見つけられたようです。お見かけしない時はちょっぴり心の動揺を覚えたりして・・・。
神様との対話を大切にしながら、皆様とのふれ合いを楽しみに、そんな気持ちで今日もごミサに与ります。

深山(磨)

☆ ☆ ☆

ようこそ赤波江神父様。お待ちしております。
神戸地区の教会のなかでも、私たちよりずっと前から、そして今でも、週日には神父様不在の教会がある事を思えば、私たちはたった数ヶ月の寂しさを我慢しただけだったのです。共同体のみんなの力をどれだけ集めても、やっぱりその中心となる核が欲しい。7月1日の赤波江神父様初めてのミサのお説教で言われたように、「信仰と希望をもって決してあきらめることなく、明日に向かって進みたい」と思います。

山際

「すみよし」第172号

発行日： 2007・8・15.

編集・発行： 広報チーム

編集責任者： 竹内和美

発行所：神戸市東灘区住吉宮町 2-18-23

カトリック住吉教会

TEL: 078-851-2756

FAX: 078-842-3380

<http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp>



[目次](#)